

# 経験から生まれた 理想の仕事は会員制図書館

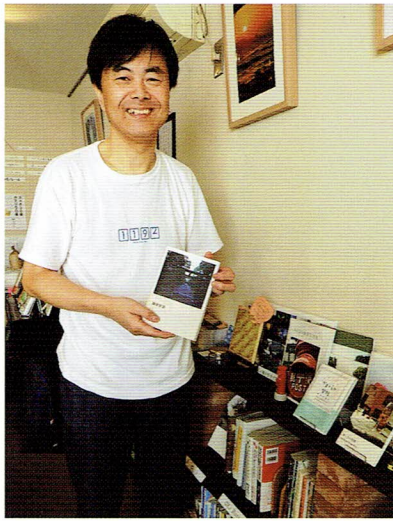
——小さなスペースから広がる大きな人の輪

シニアライフアドバイザー 松本すみこ

## ”自分で自分をリストラ”

鈴木さんは大手スーパーを経て、求人雑誌専門の広告代理店で20年ほど働いていた。しかし、リーマンショックが起きると、会社は苦境に。自分が採用した若い社員をリストラしなければならなくなり、それがいやで、辞めることを決断した。「後先を考えず、自分で自分をリストラしたんです」。

50歳過ぎの再就職は難しく、半年ほどしても就職先は決まらなかつた。そんなとき、鎌倉市観光課が鎌倉市の新しい観光事業を始め、地元の知られざることを知った。



「かまくら駅前蔵書室」を開いた鈴木章夫さん

る観光資源、魅力的な人や場所を探して、ツアーを企画するという。鎌倉には地元資本の旅行社がなく、お金は外部の旅行社に流れるだけ。

そこで、当時、地域振興を目的に政府が行った「ふるさと創生基金」制度を活用して、地元資本の旅行代理店を作ろうという趣旨だった。これは面白い、経験はないが、好きだからこそできるのではないかと応募したところ、首尾よく採用。プロジェクト名は「みんなの鎌倉遠足」。鈴木さんが名づけた。

4人でチームを作り、市内を歩いて探し回り、観光客、地元住民、事業者、外国人などにアンケートもした。その結果をもとにツアーとして売り出すことになった矢先、東日本大震災が起きて、ふるさと創生基金は消滅。事業は打ち切りになってしまった。

次に、横浜市のソーシャルビジネス普及事業に採用されたが、やはり1年ほどでなくなり、以後、鈴木さんにとって不運な時代が続

古都・鎌倉駅近くのビル3階に、「かまくら駅前蔵書室」という会員制の小さなスペースがある。オーナーは鈴木章夫さん(59歳)。広告代理店を辞めた後、観光資源の掘り起こしやまちおこしに関わってきた。その経験から生まれた図書館は、連日、居場所を求める人たちが集い、新しい絆や共同作業が生まれる特別な場所となっている。

く。セミナーを開催する「かまくらの学校」、横浜のNPOでのプロジェクト運営、東日本大震災復興支援などに関わったが、どれも、食べていけるものではなかった。

だから、夜勤で荷物の運搬などの仕事もした。「自分でもすごいと思います。今の仕事にたどり着く前の7年くらいの間に、劇的にいろんなことをやっていたんです。まだ、体力もあったので、できたんですね」と振り返る。

## アイデアが一気に浮かんだ

それでも、転機は徐々に近づいていたようだ。東日本大震災復興支援NPOの理事長が、たまたま今のビルのオーナーだった。ビルの名を「起業プラザビル」という。オーナーはもともと税理士で、自分の仕事につながるためにも起業する人を応援していた。

彼はこう言った。「鎌倉の駅前にビルを持っていて、3階は10年間使っていないんだ」。いくら繁

華街でもエレベーターのない3階では使いものにならないと、さじを投げられているという。

相談を受けた鈴木さんは、その空きスペースを見に行つた。すると、鎌倉市の観光の仕事を始めから今までに蓄積していた活動の経験が頭の中をぐるぐると回り、それらが結びついて、その場で、会員制のブックカフェを作るというアイデアが生まれた。

鎌倉遠足ツアーの参加者からはいろいろな意見を聞いていた。鎌



会員から寄付された鎌倉本の数々